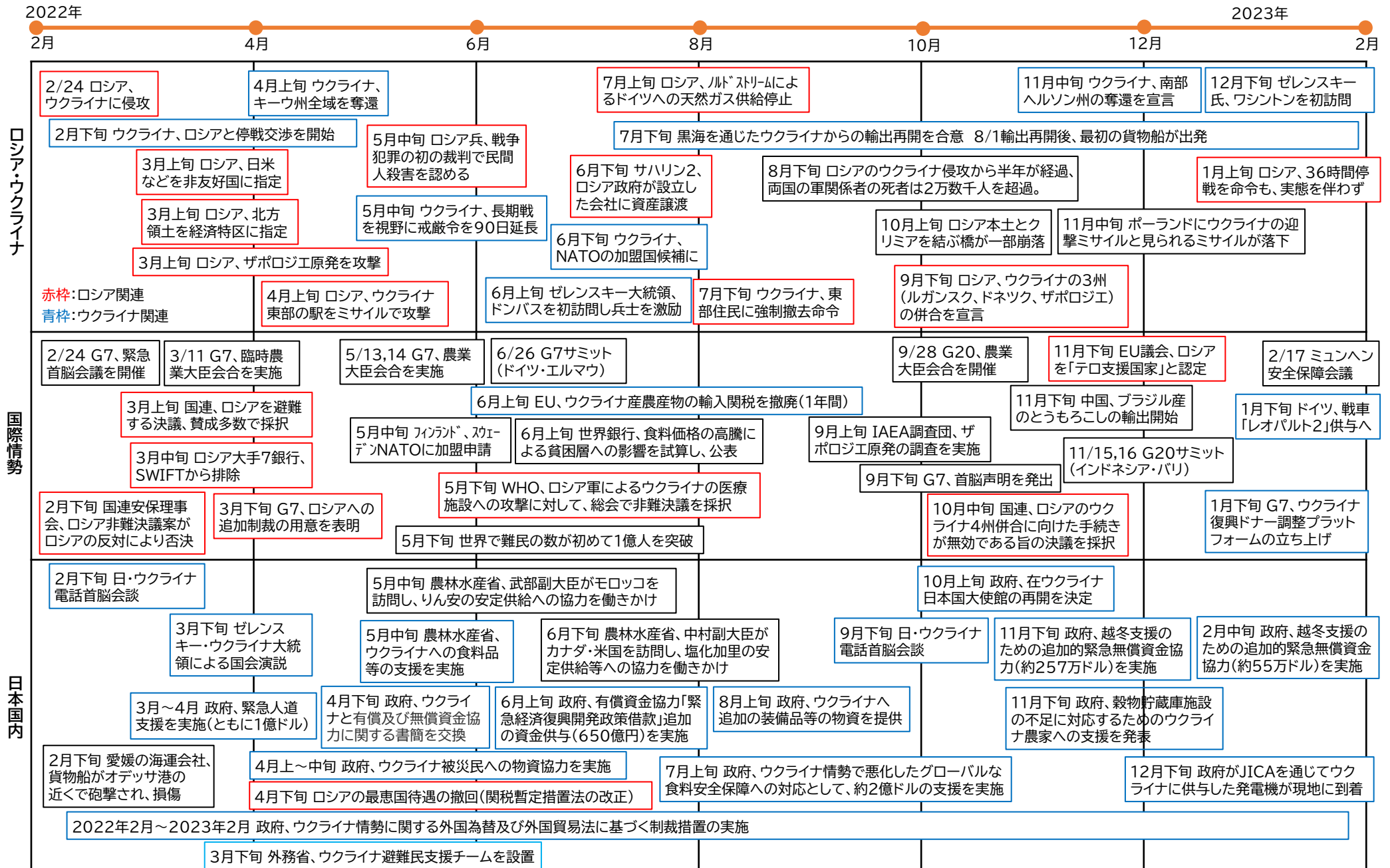


第20号特別分析トピック:ウクライナ情勢まとめ

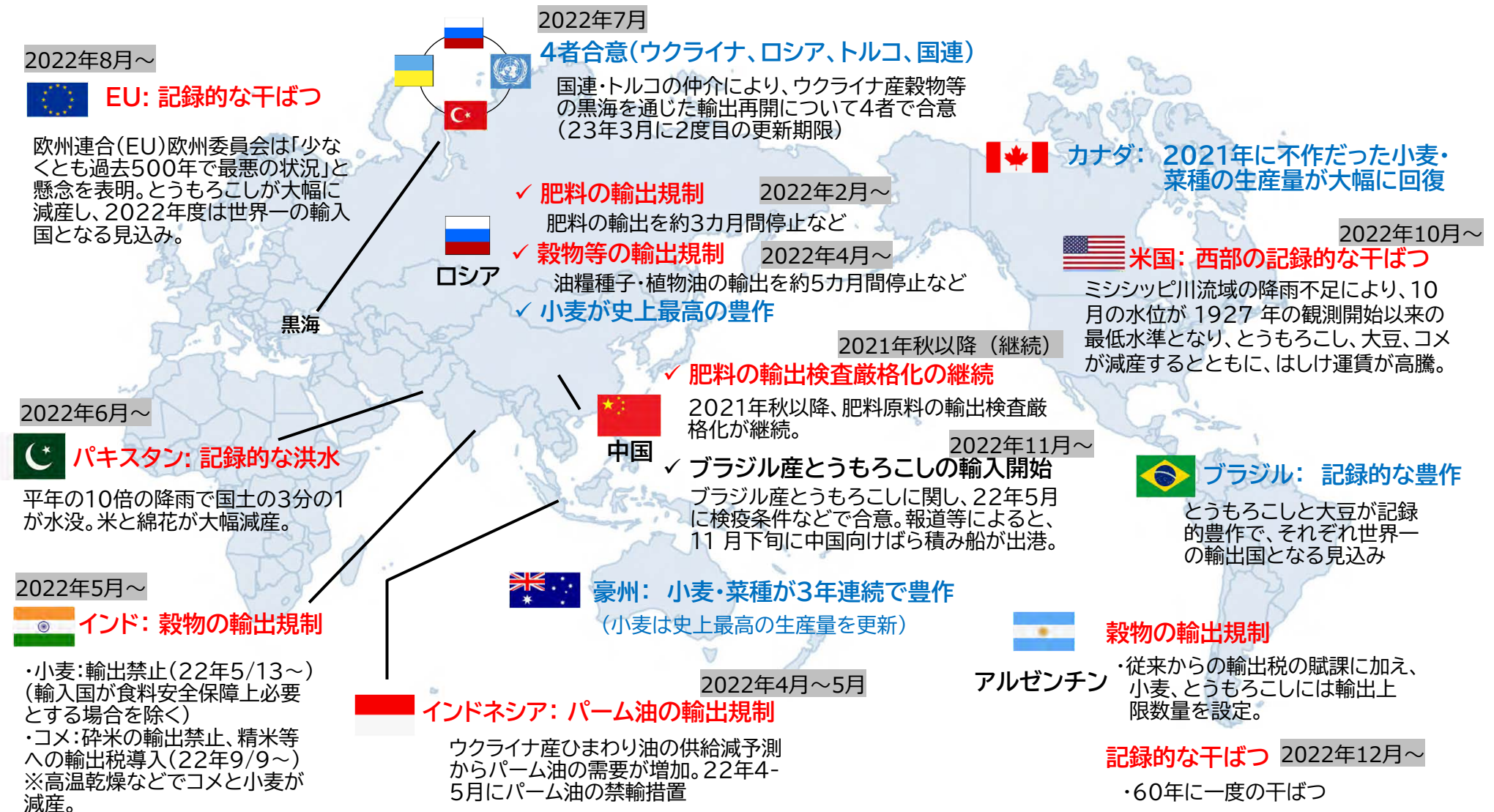
国際編

ウクライナ情勢に関する主な出来事



2022年の諸外国での主な動き

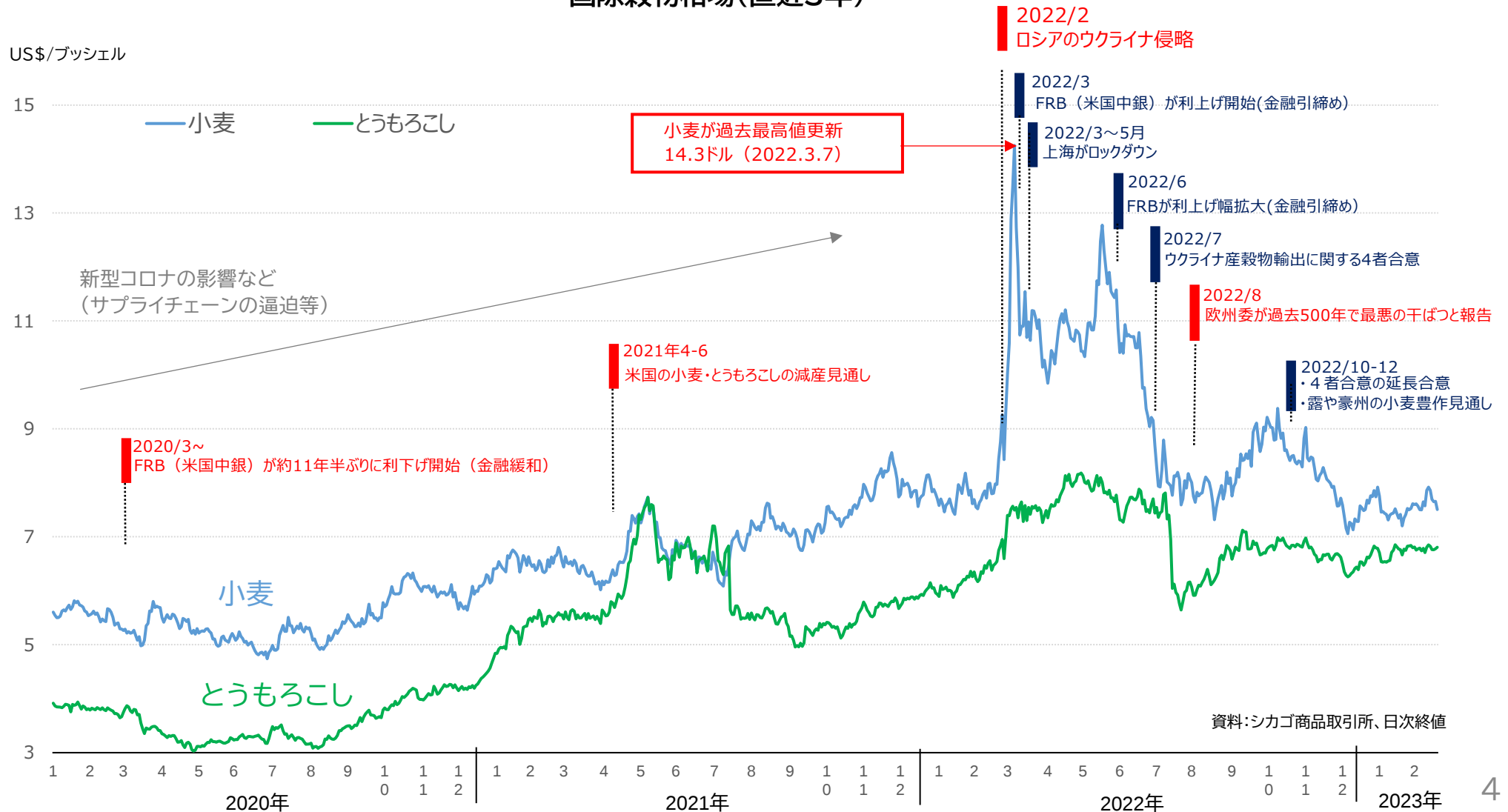
○ ロシアによるウクライナ侵略の影響や、世界各地で発生した高温乾燥等の影響が複合的に影響し、各国で食料や肥料の輸出規制などの動きが発生するとともに、穀物や生産資材価格が高騰。



世界の食料価格への影響

- 世界の農産物価格は、コロナパンデミックの影響等により2020年中頃から上昇傾向で推移しており、ロシアのウクライナ侵略を経て更に上昇、その後下落したが依然として高止まり。

国際穀物相場(直近3年)



ロシア・ウクライナの小麦の生産・輸出

- 2021/22年度において、ロシアは世界1位、ウクライナは世界5位の小麦輸出国。
- 2022/23年度については、ロシアの侵略に伴うウクライナが生産・輸出減少はあるものの、歴史的な大豊作であったロシアの輸出増加等により、世界の小麦輸出量は過去最高を更新する見込み。
- ロシアの主な輸出先は、中近東、アジアなど。ウクライナの主な輸出先はアジア、中近東など。

■小麦の生産・輸出(世界)

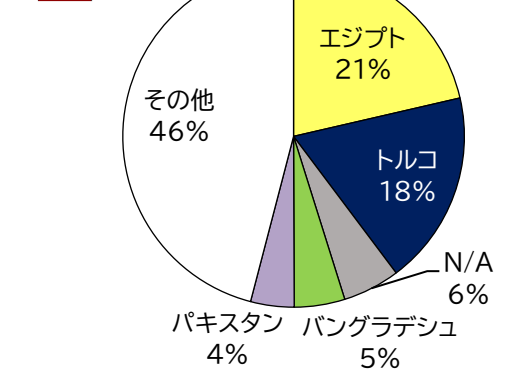
輸出量

■ロシア・ウクライナの小麦の輸出先国



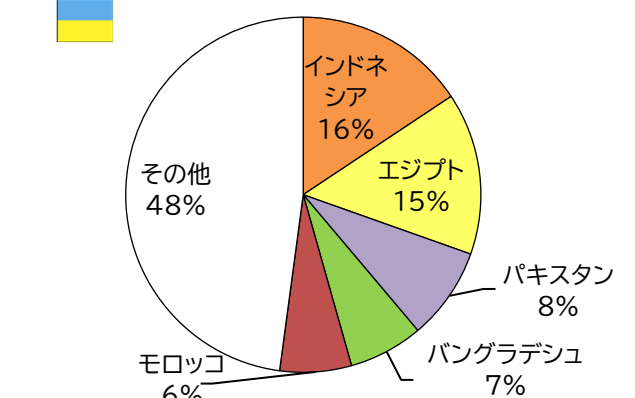
ロシア

2020/21年度



ウクライナ

2020/21年度



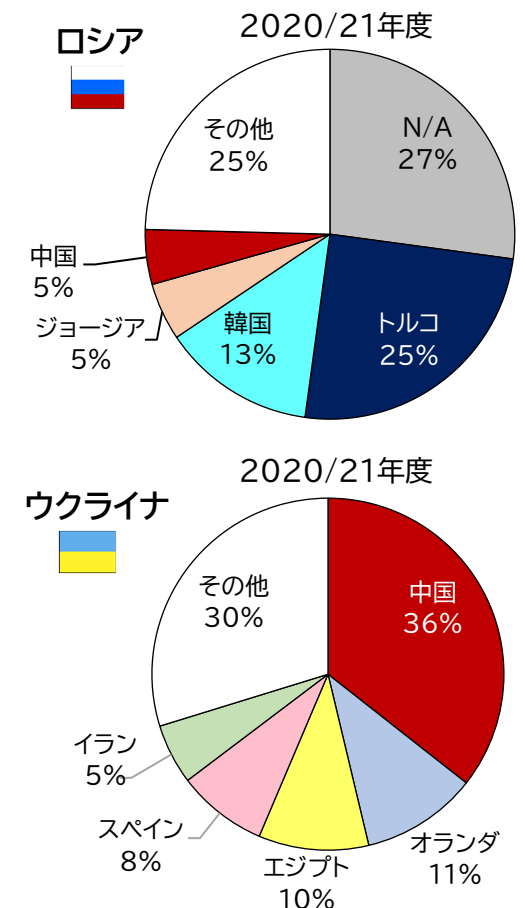
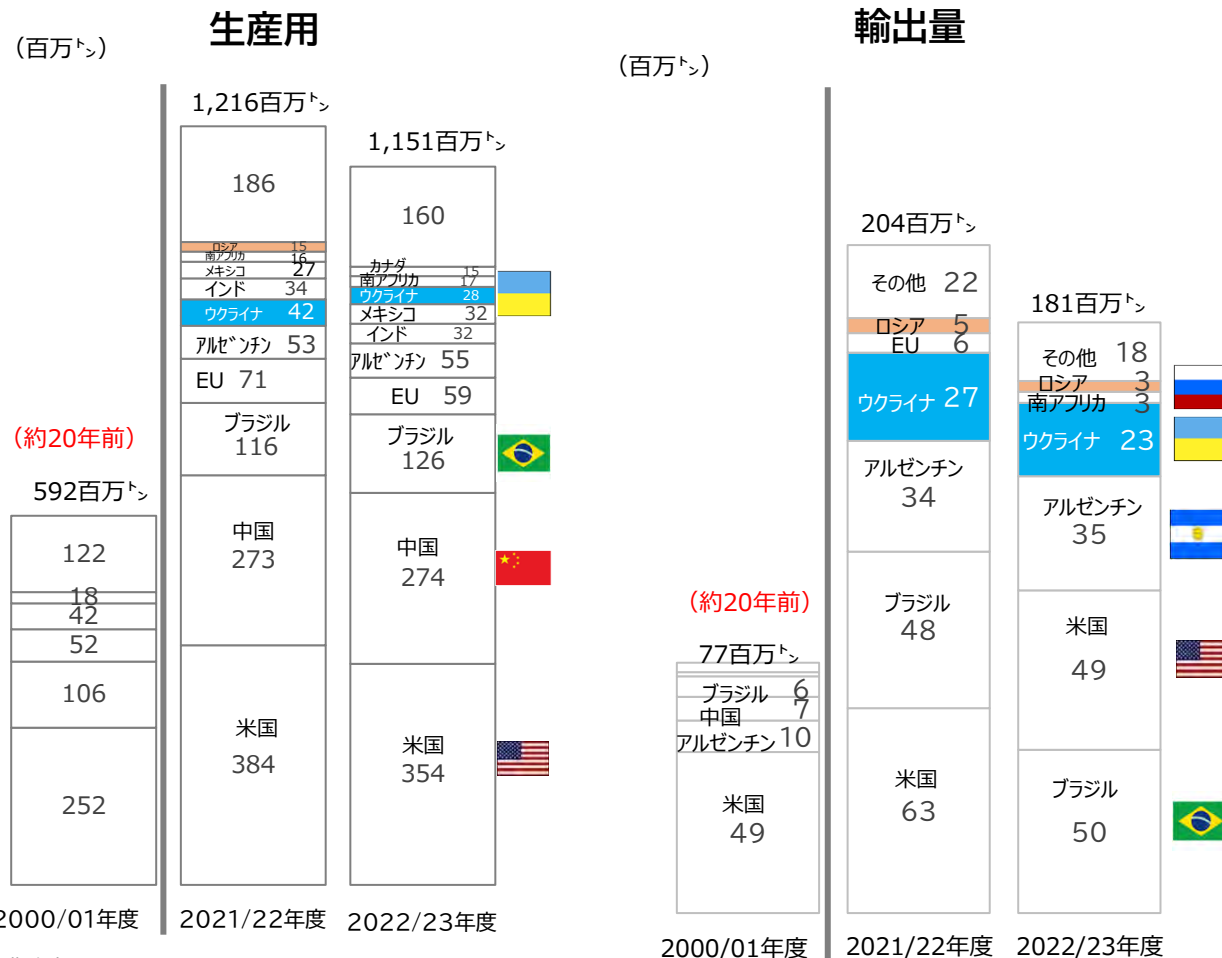
資料:ロシア税関、ウクライナ国家統計局
注:ロシアのN/Aは仕向け先非公表

ロシア・ウクライナのとうもろこしの生産・輸出

- 2021/22年度において、ウクライナは世界4位、ロシアは世界6位のとうもろこし輸出国。
- 2022/23年度については、ブラジル等の南米では生産増加見込みであるものの、ロシアの侵略に伴うウクライナの輸出減少や、高温・干ばつによるEUや米国での生産減少等により、世界全体の輸出量は約1割、減少見込み。
- ロシアの主な輸出先は、中近東、アジアなど。ウクライナの主な輸出先は中国、欧州、中近東など。

■とうもろこしの生産・輸出(世界)

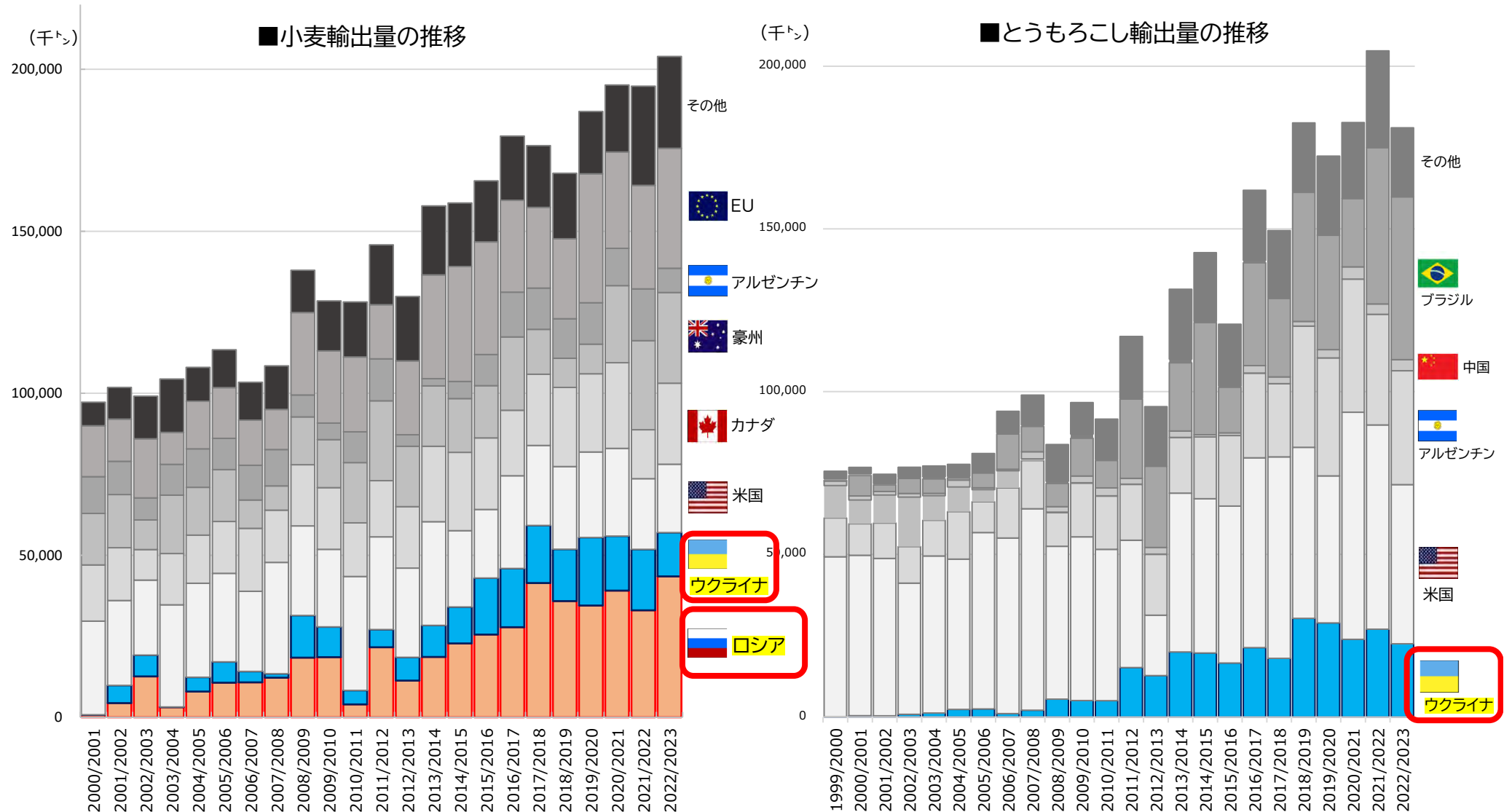
■ロシア・ウクライナのとうもろこし輸出先国



資料:ロシア税関、ウクライナ国家統計局
注:ロシアのN/Aは仕向け先非公表

世界の穀物輸出量の長期推移

○ 直近約20年間で、小麦の輸出国はロシア、ウクライナなどが台頭。とうもろこしは、南米諸国やウクライナなどが台頭。(ロシア、ウクライナ共に、穀物の世界有数の輸出国となっており、世界の穀物市場に与える影響は大きい)

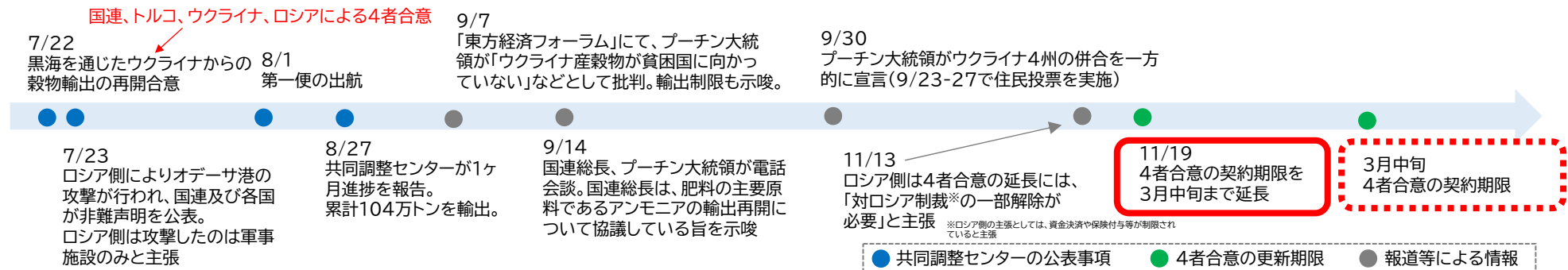


ウクライナの黒海回廊による穀物輸出再開状況

○2022年2月のロシアのウクライナ侵略以降、ウクライナの穀物輸出が途絶えていたが、7月に国連、トルコの仲介により、ウクライナ産穀物等の輸出が再開(国連、トルコ、ウクライナ、ロシアによる4者合意)。
○2023年3月に4者合意の契約延長期限が到来(昨年11月に続いて2回目)すること等、注視が必要な状況。

■ウクライナの黒海経由の穀物輸出再開をめぐる動向

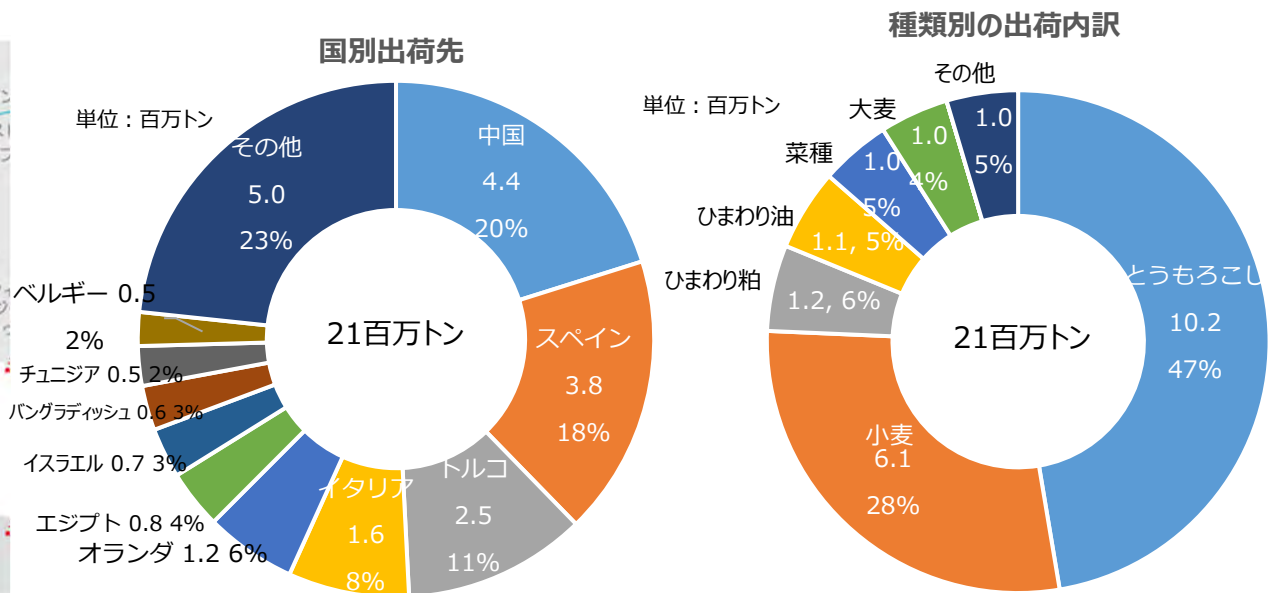
2023年2月時点



■黒海輸出の地図



■輸出再開後のウクライナ産穀物等の出荷実績(8/1～2/17の累計)



資料:国連ホームページ

※2021/22年度(通年)のとうもろこし輸出実績は26百万トン、小麦輸出実績は19百万トン

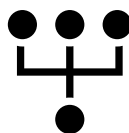
ウクライナ産農産物の過剰流入によるEUへの影響

- EUは、ロシアのウクライナ侵攻に伴う海路からの穀物輸出の停滞に対応するため、陸路とEUの港を経由したウクライナからの食料輸出を促進する「連帯レーン」イニシアティブを推進。
- その一方で、ウクライナの穀物等のEU市場への流入が大幅に増加したことで、近隣国では国産穀物の需要と競合し、生産者の影響緩和に向けた対応も求められている。

■「連帯レーン」イニシアティブとは



船舶・貨物自動車
等の提供



輸送ネットワーク
の効果的利用



通関業務の迅速化



EU域内における保管

EUはプログラム拡大のための投資を
続けており、2023年末までに、欧州機関、
欧州復興開発銀行、世界銀行から10億
ユーロ以上が割り当てられている。

■ウクライナから近隣国へのとうもろこしの輸出状況



EUでは、

- ・連帯レーンからEU域内市場への漏出・流入を防止
 - ・ウクライナ産農産物の流入増加により悪影響を受けた農家への補償
 - ・共通農業政策における柔軟な対応
 - ・新しい輸送路の設置への支援
- 等を検討中ではあるが、対応方針は現時点では確定していない状況

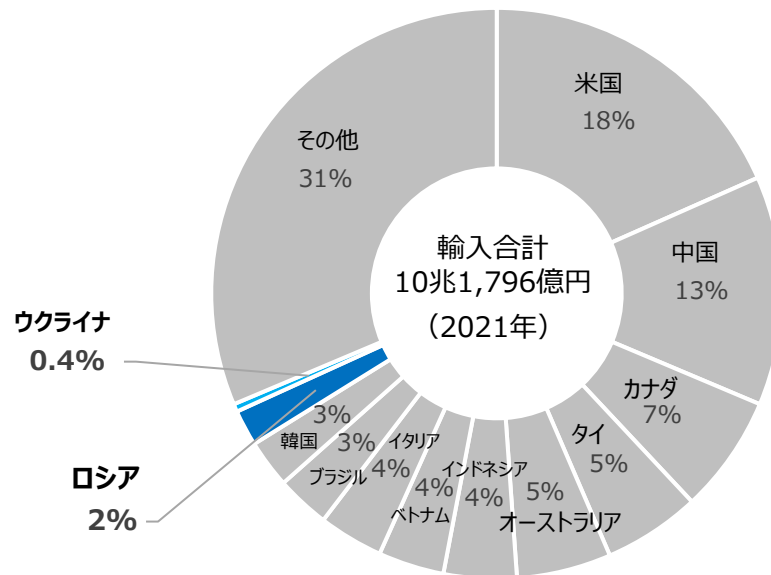
国内編

日本の農林水産物の貿易について

- 日本の農林水産物の総輸入額のうち、ロシア・ウクライナが占める割合は小さい。
- ロシアからの輸入は、製材や水産物が中心。ウクライナからの輸入は、たばこが中心。

■ 我が国の農林水産物の国別輸入額

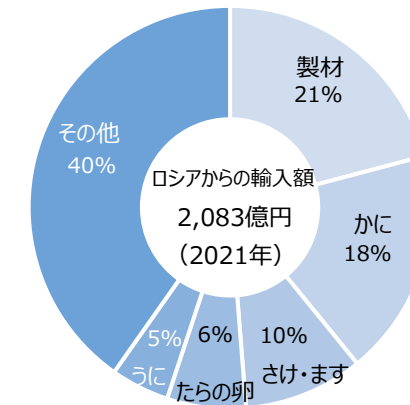
ロシア・ウクライナの我が国の輸入全体に占める割合は比較的小さい



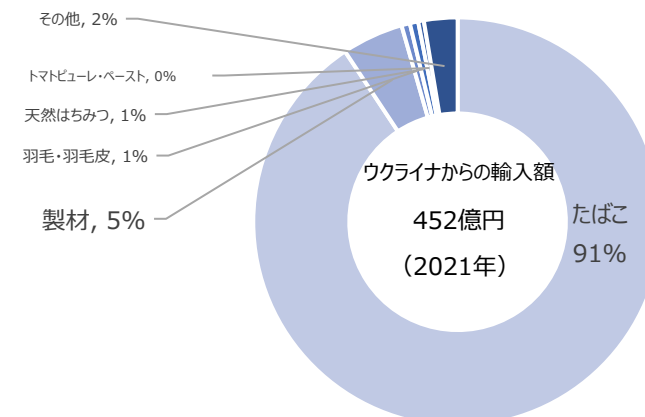
資料：財務省「貿易統計」

■ 我が国のロシア、ウクライナからの輸入品

ロシアからの農林水産物の輸入



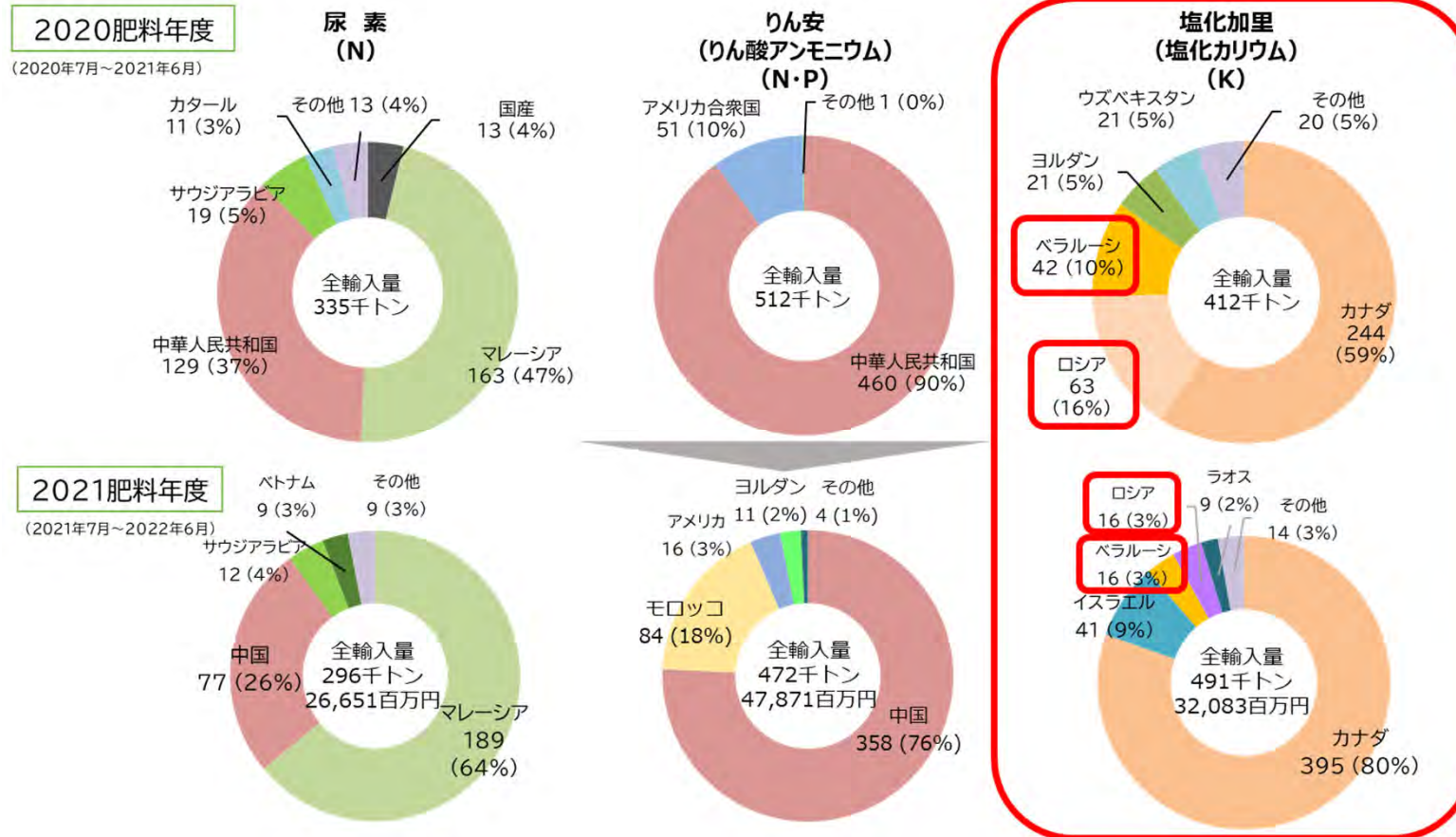
ウクライナからの農林水産物の輸入



資料：財務省「貿易統計」

肥料原料の輸入状況

- りん安や塩化加里は原料となる鉱物資源が偏在している。2020肥料年度の主な輸入先国は、尿素についてはマレーシア、中国、りん安については中国、塩化加里についてはカナダと特定の国への依存度が高まっている。
- こうした中、2021年秋以降、中国において肥料原料の輸出検査が厳格化され、我が国の肥料原料の輸入が停滞したことを受け、モロッコ等からの協調買入を急遽要請。また、ロシアやベラルーシから一定割合を輸入していた塩化加里についても、ウクライナ侵略の影響によりカナダ等から必要量を確保。



現在の対応状況

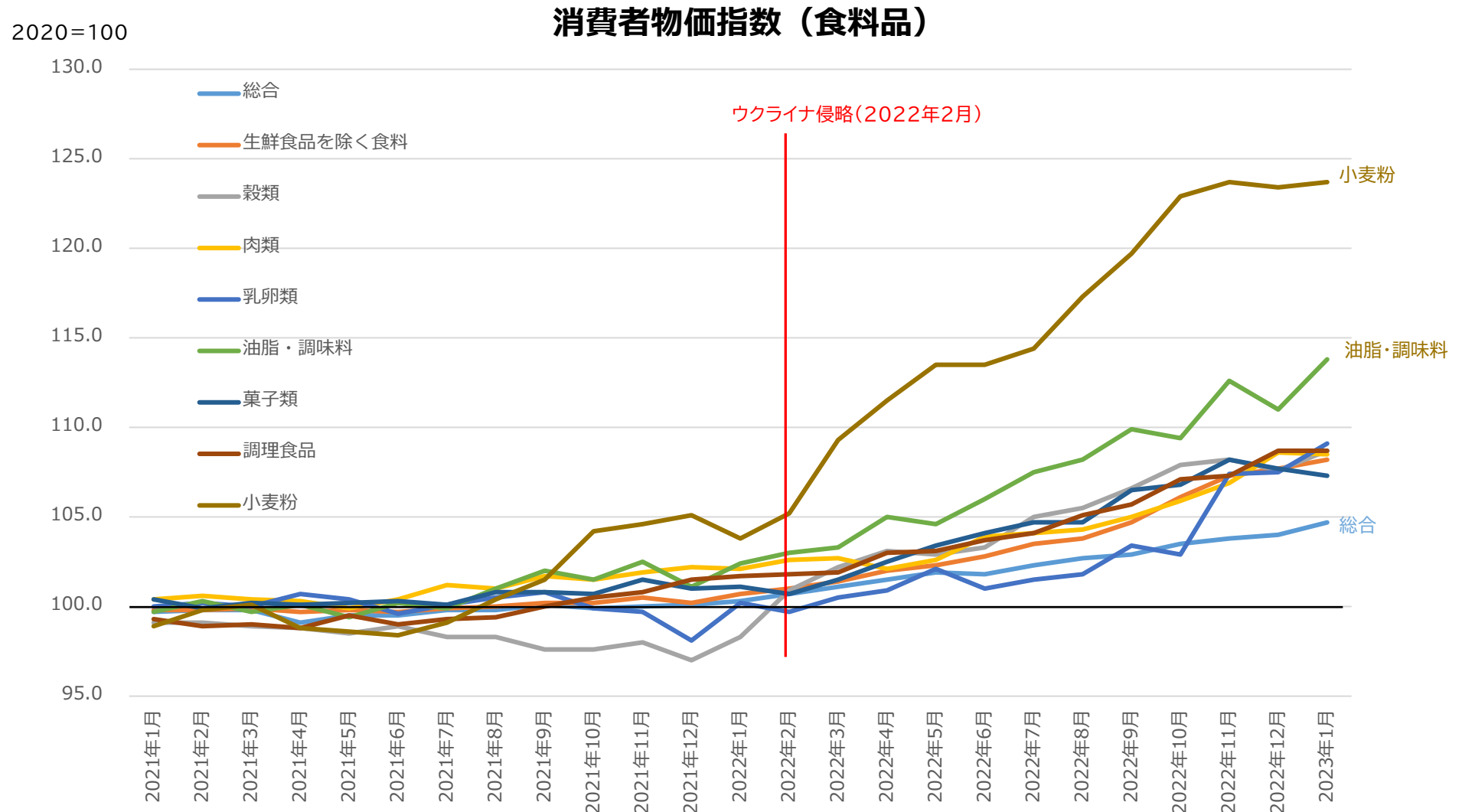
中国からの輸入が停滞
→ マレーシア等からの輸入が増加

中国からの輸入が停滞
→ モロッコ、ヨルダン等からの輸入が増加

ロシア・ベラルーシからの輸入が停滞
→ カナダ等からの輸入が増加

日本の食品価格について

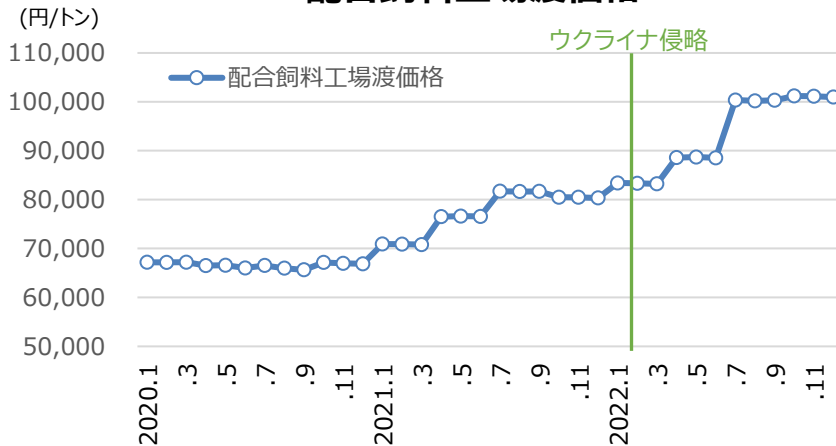
○小麦粉や油脂などを中心に、食料品の物価は上昇傾向。



各種価格・指標の推移

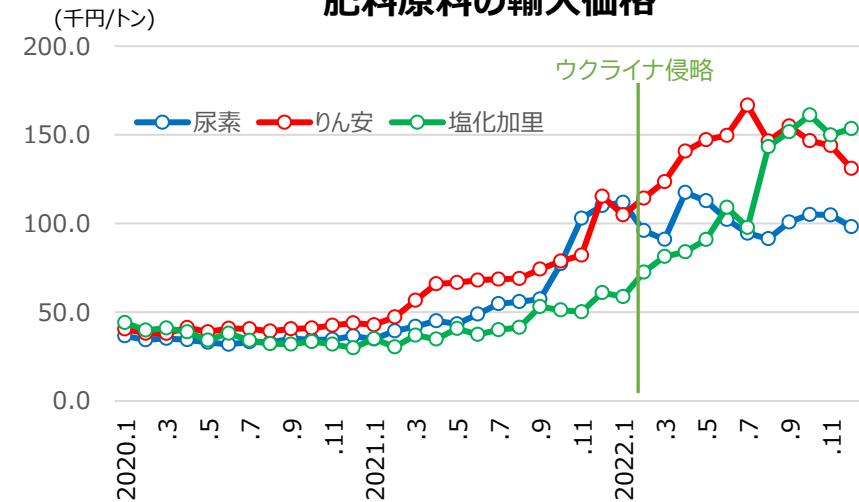
○ 昨今の世界的な人口増加等に伴う食料需要の拡大や、気候変動に伴う食料生産の不安定化、新型コロナウイルス(サプライチェーンの逼迫等)、ロシアによるウクライナ侵略、円安等により、穀物や、肥料、飼料の価格は上昇・高止まり。

配合飼料工場渡価格



資料：(公社) 配合飼料供給安定機構「飼料月報」注：配合飼料価格は、全畜種の加重平均価格である。

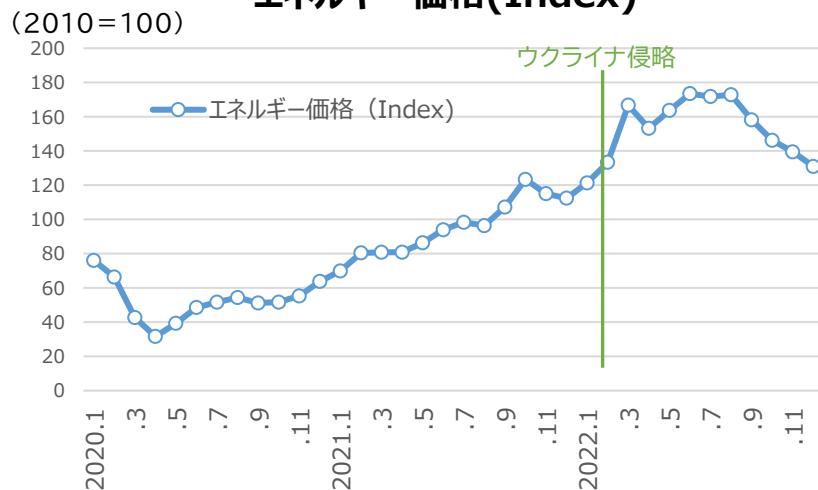
肥料原料の輸入価格



資料：農林水産省調べ

注：財務省貿易統計における各原料の輸入額を輸入量で除して算出。
ただし、月あたりの輸入量が5,000t以下の月は前月の価格を標記。

エネルギー価格(Index)



資料：世界銀行

為替相場 (円/ドル)



資料：日本銀行

参考(ウクライナ関連情報)

(参考)ウクライナの農林水産概況

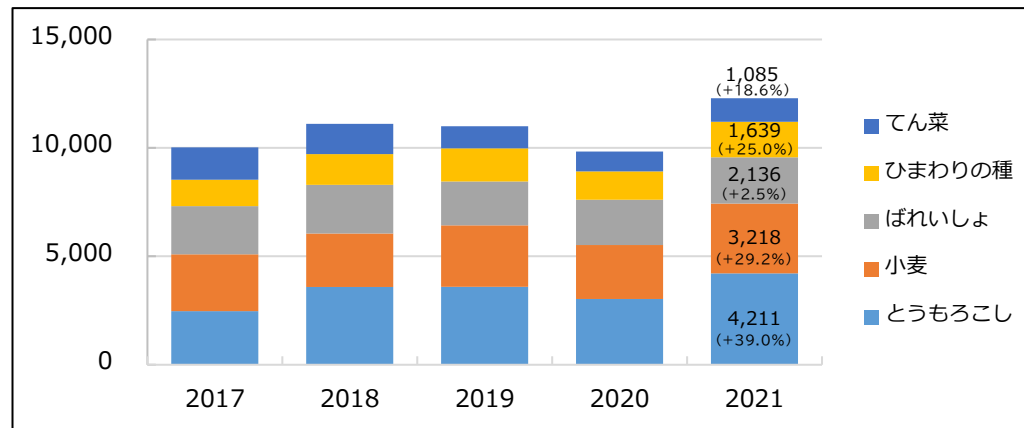
- 人口は、約4,353万人(2021年)。
- 「ヨーロッパの穀倉」といわれ、国土の約7割を農用地が占める。
- 西の国境付近を除き緩やかな丘陵地で、チェルノーゼムと呼ばれる肥沃な黒土が広がる。気候は温暖で、年間降水量は北西から南東に向かうにつれて減少する。
- 主要農産物は、小麦、とうもろこし、ばれいしょ、ひまわりの種、てん菜等



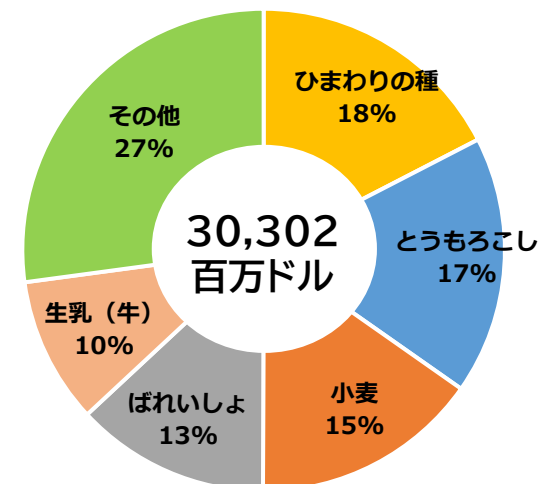
■農林水産業の地位(2021年)

	ウクライナ		日本	
	名目額	比 率	名目額	比 率
国内総生産(GDP)	2,001	100%	49,409	100%
うち農林水産業	213	9.3%	514	1.0%
一人当たりGDP(USドル)	4,596		39,650	

■主な農産物の生産状況(2017～2021年)



■農畜産物の生産額の割合(2020年)

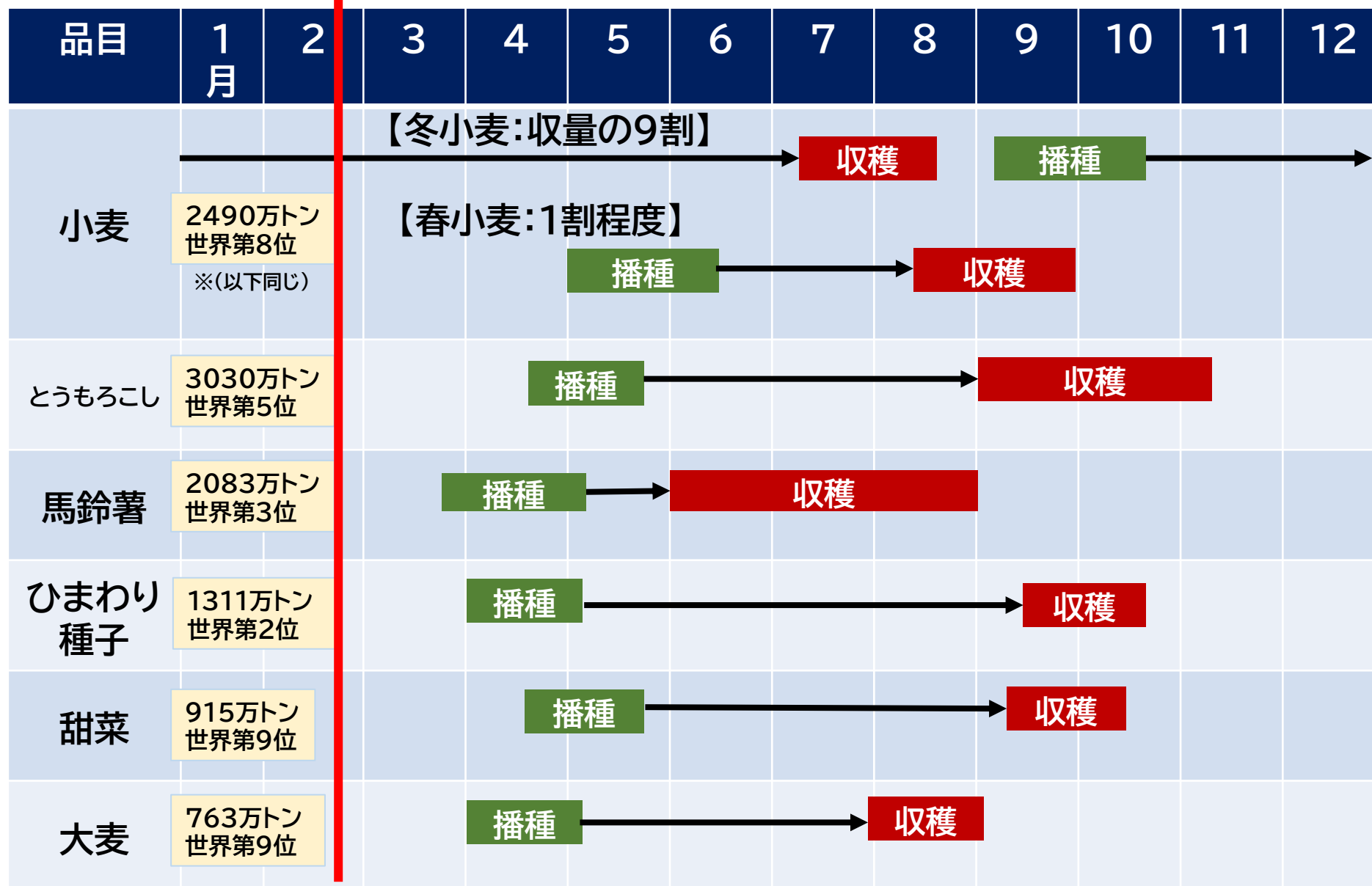


資料: UN「National Accounts Main Aggregates Database」、FAOSTAT

注: ()内の数字は対2020年比

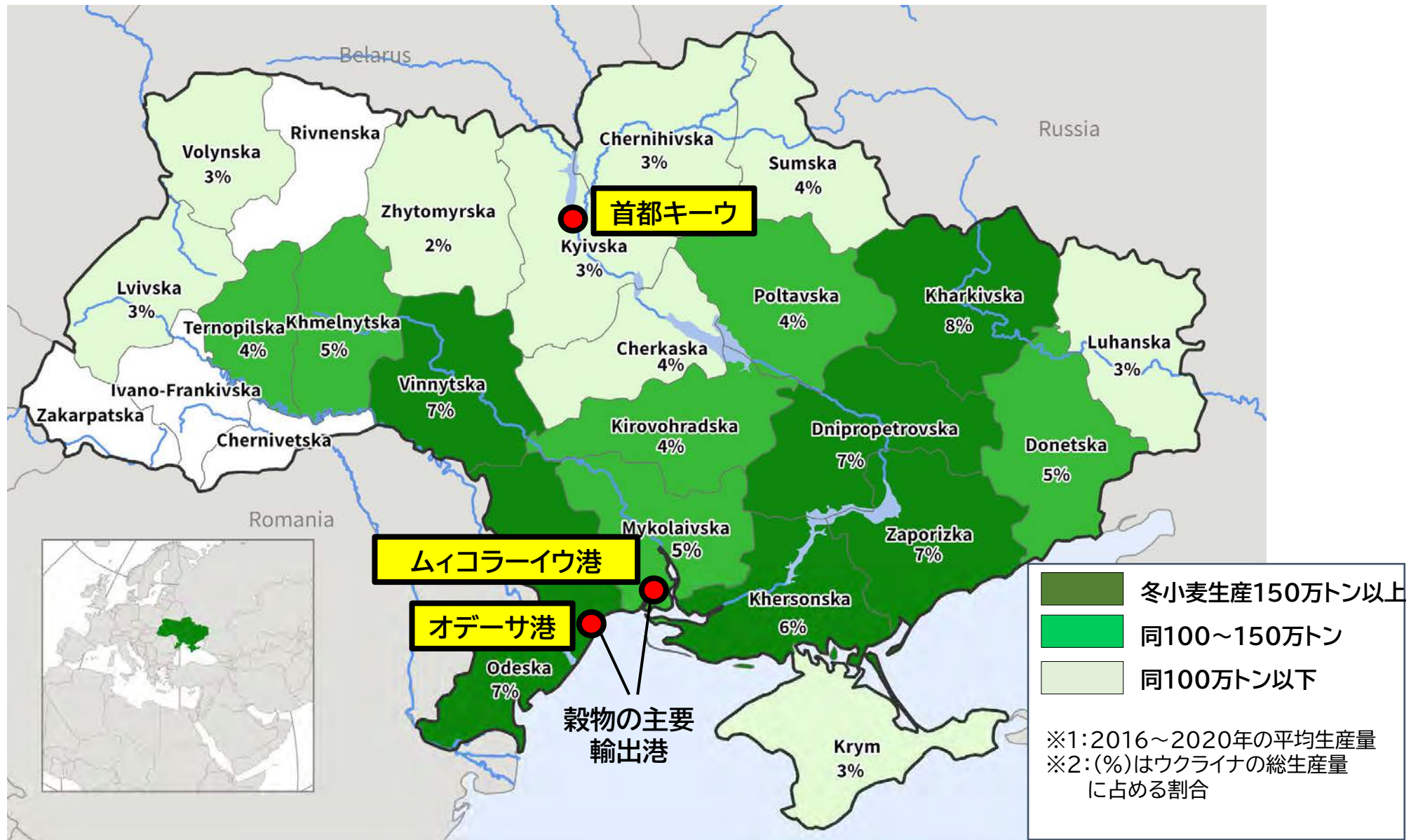
(参考)ウクライナの主要農産物の作付・収穫時期

ロシア侵攻開始

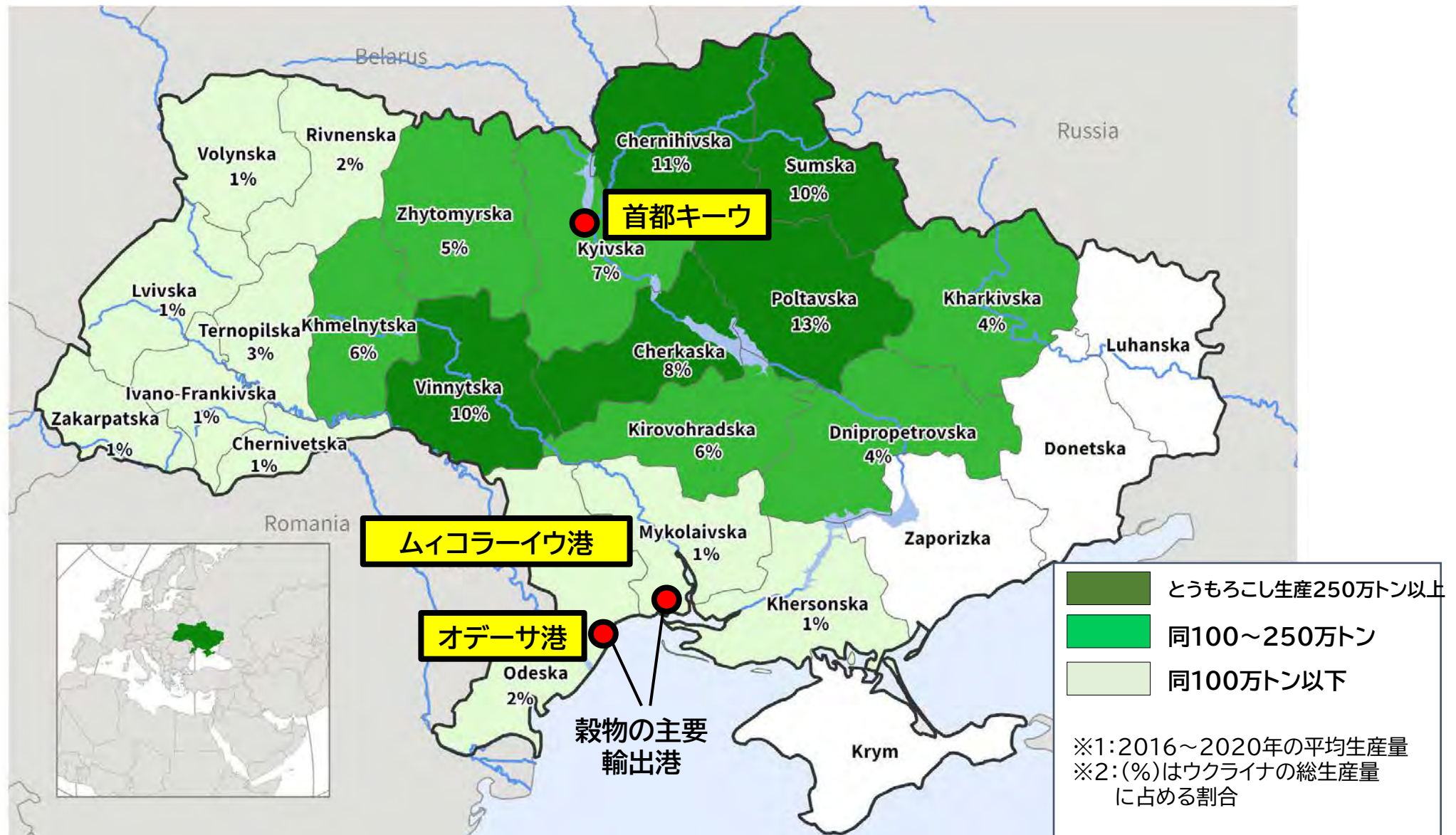


出典:FAOSTAT、米国農業省、農林水産省調査 ※2020/21の生産量および生産量順位を示したもの

(参考)ウクライナの小麦生産地



(参考)ウクライナのとうもろこし生産地



(参考)ロシア・ウクライナの穀物サイロの形態

収容能力

〈ウクライナ〉 71.6百万トン（内陸:66.0百万トン 港湾:5.6百万トン） 資料:ウクライナ穀物同盟

〈ロシア〉 146.8百万トン 資料:ロシア穀物同盟

1.形態別の特徴(ロシア、ウクライナ共通)

- (1)近代的な金属製エレベータ (2)ソ連時代に建設された鉄筋コンクリート製エレベータ
- (3)「納屋」タイプ倉庫(コンクリート床に直置きする施設) (4)ポリマー製の細長い袋(圃場など屋外に置いておく)



(1)近代的な倉庫(港湾)



(1)近代的な倉庫(生産地)



(2)ソ連時代の倉庫



(3)納屋タイプの倉庫



(4)ポリマー製の袋

2.形態別の特徴

〈所有〉(1)と(2)は比較的大手企業、(3)は大手企業の他に中小企業。(4)は主に保管施設が不足する場合の補助的な位置づけで、比較的近年、使用が広がり始めており、大手だけでなく中小も使用。

〈サイズ〉(1)と(2)は大型。

〈用途〉(1)(2)は周辺の生産者の穀物も受け入れる営業倉庫の場合が多い。生産をしない保管専門の企業が保有している場合もある。(2)は製粉施設に併設されている場合がある。

〈特性〉(2)は老朽化している場合が多く、品質が劣化しやすい可能性がある。(3)はトラックで運んできたものをそのまま積み下ろしただけの原始的な施設のため、品質が劣化しやすい傾向。定期的にショベルカーでかき混ぜたりして品質を維持。(4)は外国由来の技術であり、密閉された袋なので、保存の質は良好で、ロット管理も容易。一方で、圃場に並べたりの使用のため、長期の保管は播種作業の邪魔になる。また、(1)や(2)よりもコストが低いものの、エレベータとは異なり、袋に入れる前に別途、乾燥処理や異物除去が必要。また、一度袋に入れてしまうと中の状況が分からないため、長期保管には向かないとの指摘。サイレージ用の使用が多い。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2023 年 2 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 月報で一番関心／参考にしている項目のうち、特別分析トピックを選択された場合、特に関心があったテーマがあれば教えてください。
- 7 最近で最も興味を引いた／役立った記事は何ですか。（自由記載）
- 8 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
中国の需要・輸入動向
- 9 特別分析トピックで取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
- 10 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）



ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html